

# 纏向遺跡第173次調査現地説明会資料

平成24年2月18日(土)

桜井市教育委員会

調査期間 平成23年12月5日～継続中

所在地 桜井市大字辻48番地

調査面積 約360㎡

## 1. はじめに

桜井市教育委員会では昨年度に引き続き、纏向遺跡の範囲確認調査をおこないました。この調査は平成20年度から着手しました纏向遺跡の中枢部を探る範囲確認調査の5回目の調査となります。

調査に際しましては、土地所有者並びに地元関係者の方々から多大なるご協力を賜りました。この場を借りまして御礼申し上げます。

## 2. 調査地の位置

調査地は現在標高75m前後の微高地上に位置します。この微高地は、太田北微高地と呼ばれ、その南北は旧河川の跡である谷地形となっています。太田北微高地は東西に細長く、南北の谷部分からは約2m高くなっています。周辺は纏向遺跡のなかでも比較的古い時期の遺構が存在する地域であり、過去の調査でも庄内式期(3世紀前半～中頃)の古い時期の遺構が多数検出されています。

## 3. 調査の目的

平成20年度よりはじまった範囲確認調査で、今回の調査区の北側に3世紀前半の建物群と付属する遺構が確認されています。今回の調査の主な目的は、建物群より南側の遺構の状況を確認することと、微高地の南限を画する施設の有無を確認することでした。

## 4. 検出された遺構

今回の調査では、168次調査で検出された建物群の建築に伴う整地層は確認されず、地山上面での調査を行うこととなりました。

検出された主な遺構としては、東西方向の溝(SD-1001)、南北方向の溝(SX-1001)、方形の落ち込み(SX-1003)や土坑(SK-1001、SK-1003、SK-1004)、ピット〔小穴〕群などが確認されています。

しかし、いずれの遺構も建物群に伴うとの確証を得ることはできず、その可能性のある遺構を検出するにとどまりました。

また、遺構の検出面は標高74.3mでこれまでの調査区とほぼ同じ高さであるにもかかわらず、遺構の密度はこれまでの調査地より低いものでした。これは、後世に耕作などで削平を受けたものかあるいは、当初から遺構が少なかったかの2通りの可能性が考えられます。

#### 4-1. 建物群に伴う可能性のある遺構

##### ①東西溝 SD-1001

調査区の南端を東西に走る幅60cm程の溝で、SK-1001などの遺構によって壊されているものの、長さは6m以上あったことを確認しています。後世に削平を受けたと考えられ、深さは平均して15cmほどしか残っていませんでしたが、庄内3式期(3世紀中頃)～布留0式期古相(3世紀後半)の土器が出土していることから、その頃に埋没したものと考えられます。この溝は建物群の軸線が真西に対して南へ約4°振るのに対して、真西から北へ約5°振っており、その方向が異なります。

##### ②ピット列

調査区の中央付近ではピット〔小穴〕群を検出しています。このうちの一部がピット列として直線に並ぶ可能性があり、直線的に並ぶピットは3基分を検出しています。各ピット間の距離は約2.9mで真西に対して南へ約6°振っており、建物群の東西軸線とは方位がほぼ一致していますが所属時期を決める資料が無く、今後さらに検討が必要と考えています。

#### 4-2. その他の遺構

SK-1001、SK-1003、SK-1004は168次調査で検出した大型の祭祀土坑(SK-3001)とほぼ同時期(3世紀中頃～後半)の埋没と考えています。土坑の中からは尾張地域(愛知・三重県)や近江地域(滋賀県)の特徴を持った外来系の土器のほか、木製品などが出土しています。

また調査区の西側では、布留2～3式期(4世紀中頃～後半)に埋没した南北溝SX-1001を検出しています。SX-1001は幅が約8mある溝で、これまでの調査区と合わせると長さは54m以上続いています。南端はそのまま谷部に抜けず、止まるものと考えられます。この溝は人工的に掘られたものと考えられ、建物群廃絶後も周辺がなんらかの形で土地利用されていたことがうかがえます。こういった3世紀以降の纏向遺跡の動向も、纏向遺跡を評価する上で重要です。

#### 5. まとめ

今回の調査では、建物群に伴う遺構や微高地の南限を画する施設の有無確認を目指しましたが確実な遺構は特定できず、幾つかの遺構にその可能性があることを指摘するにとどまりました。

このうち南限施設の確認は今後の課題として残されましたが、建物群から微高地の南縁辺に至るまでの間において建物やその他の遺構が検出されなかったことから、建物周辺に一定の空間が確保されていた可能性も考えられます。

今後も関係各位のご協力のもと、周辺での調査を推進し、居館域の構造や個々の遺構の性格を明らかにしていきたいと考えています。

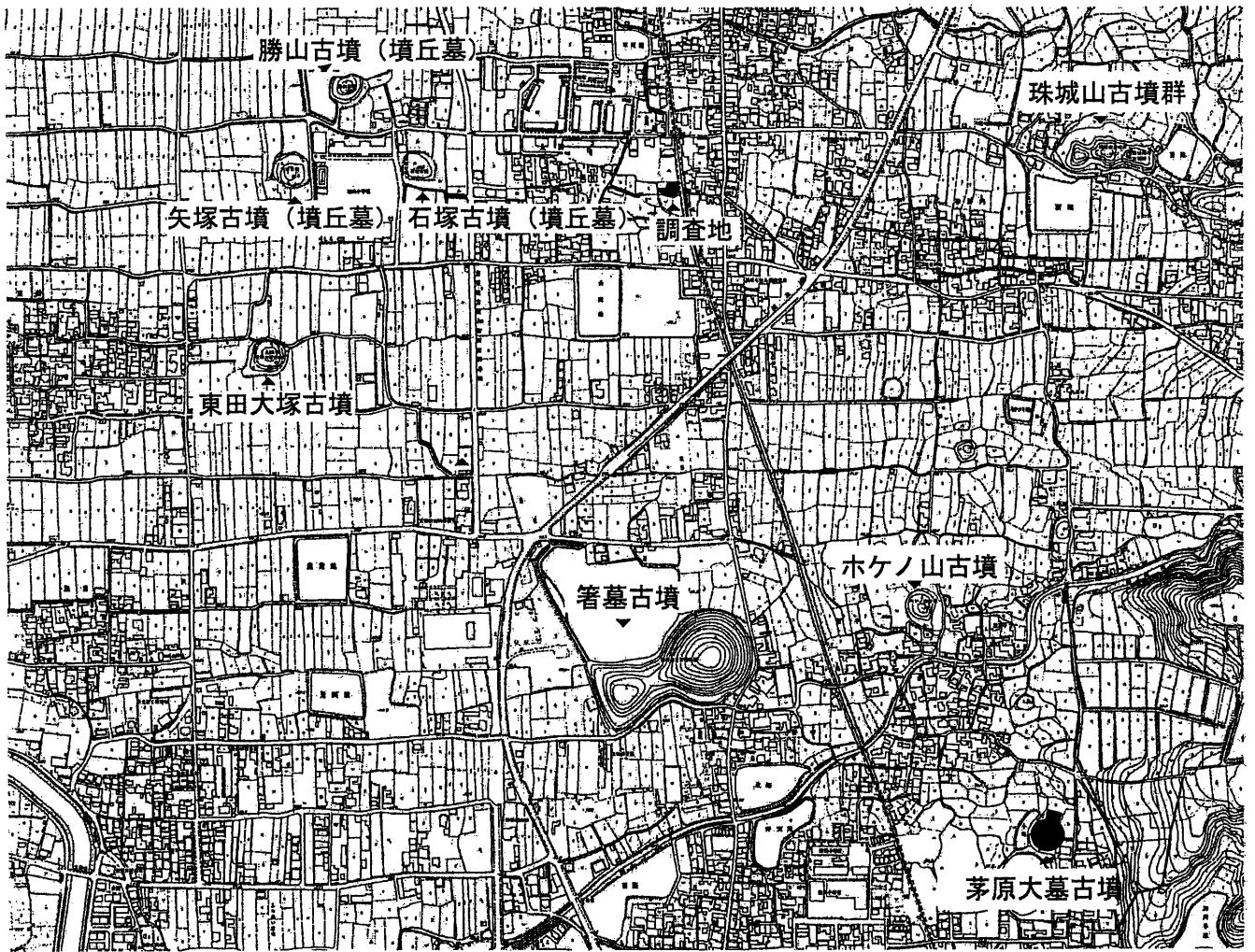


図1 周辺の遺跡



図2 調査区周辺地形図

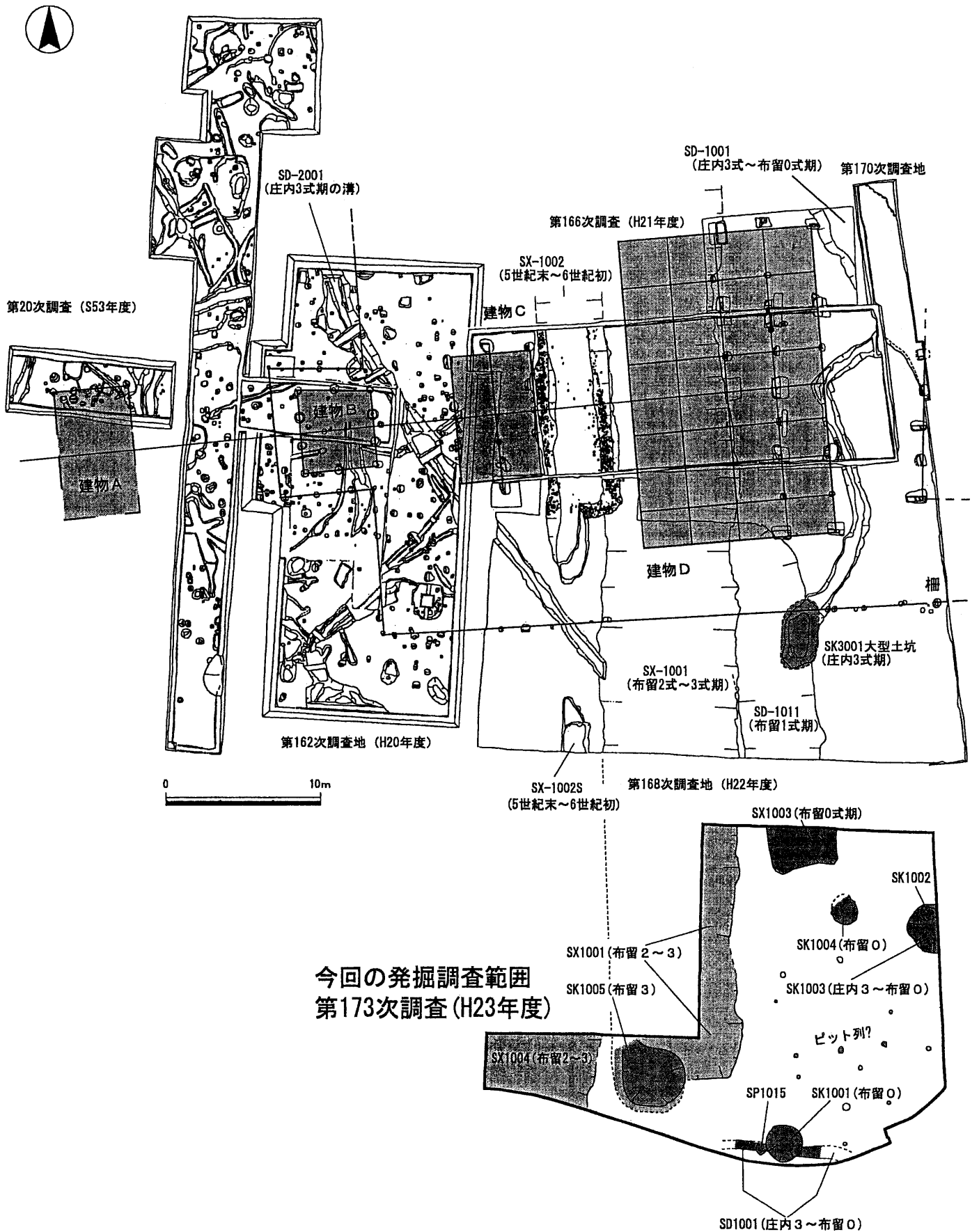


図3 調査区配置図